

千葉市感染症発生動向調査情報

2015年 第38週 (9/14-9/20) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		38週	37週	36週	35週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数 「定点当たりの患者数」とは 報告患者数/報告定点数。	小児科	17	18	18	18
	眼科	4	5	5	5
	インフルエンザ*	23	27	27	28
	基幹定点	1	1	1	1

定点	感染症名	注意報	千葉市				千葉県
			9/14-9/20	9/7-9/13	8/31-9/6	8/24-8/30	9/7-9/13
			38週	37週	36週	35週	37週
小児科	RSウイルス感染症	○	2	7	3	5	65
	咽頭結膜熱		3	7	8	4	52
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	36	18	25	17	232
	感染性胃腸炎		59	60	43	58	366
	水痘		6	1	5	3	15
	手足口病	◎★★★	154	118	149	152	762
	伝染性紅斑	↓	16	21	15	13	85
	突発性発しん		16	19	17	19	91
	百日咳		1	0	0	3	2
	ヘルパンギーナ		18	12	20	36	151
流行性耳下腺炎		3	11	9	7	76	
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		0	0	0	0	6
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎	◎	7	3	5	8	23
基幹定点	細菌性髄膜炎(髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎		0	0	1	1	4
	マイコプラズマ肺炎		1	0	0	0	3
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0

★★★:流行中 ★★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(6件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	30歳代	IGRA検査等	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	男性	40歳代	細菌の検出及び薬剤耐性の確認
結核	男性	60歳代	病理学的特徴的所見				
結核	男性	80歳代	病原体等の検出	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	男性	70歳代	細菌の検出及び薬剤耐性の確認
梅毒	男性	70歳代	血清抗体の検出				

*結核3件(166)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症2件(10)、梅毒1件(9)の報告があった。

※ ()内は2015年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第38週のコメント

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎> 前週より増加し2.12となった。過去10年の同時期と比べると最多。

<手足口病> 前週より増加に転じ9.06となった。流行発生警報開始基準値は上回ったままで、過去10年の同時期と比べると最多。

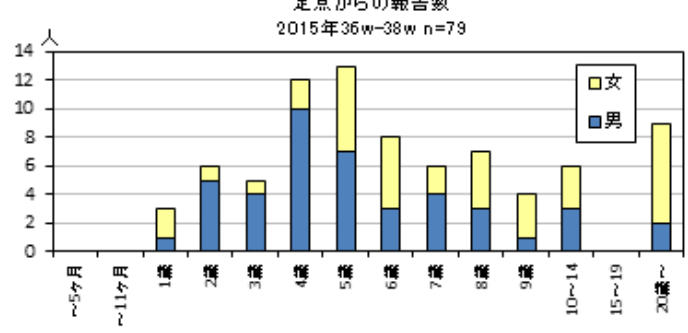
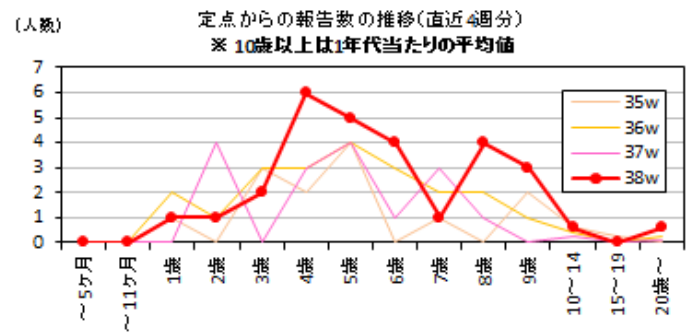
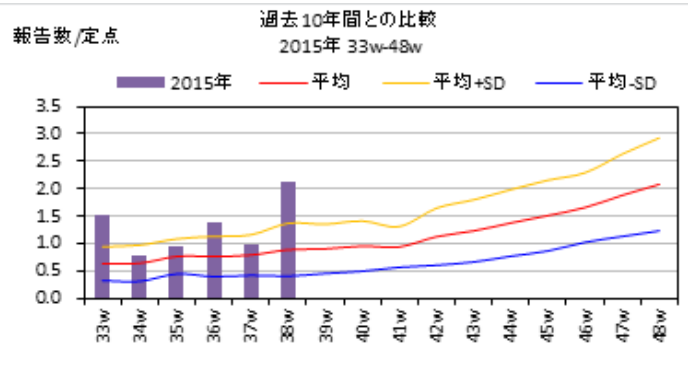
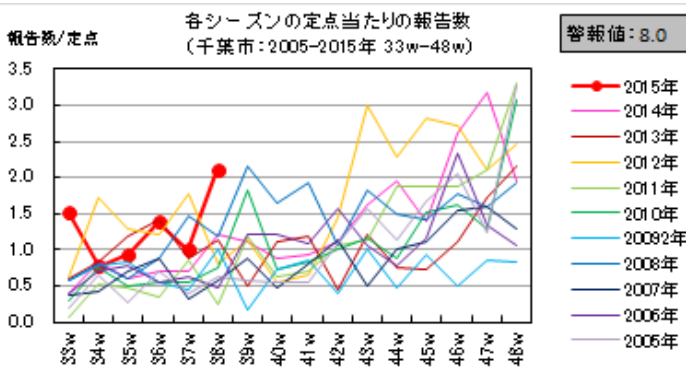
<伝染性紅斑> 前週より減少し0.94となった。過去10年の同時期と比べると最多。

<流行性角結膜炎> 前週より増加し1.75となった。過去10年の同時期と比べると最多。

■ トピック ■

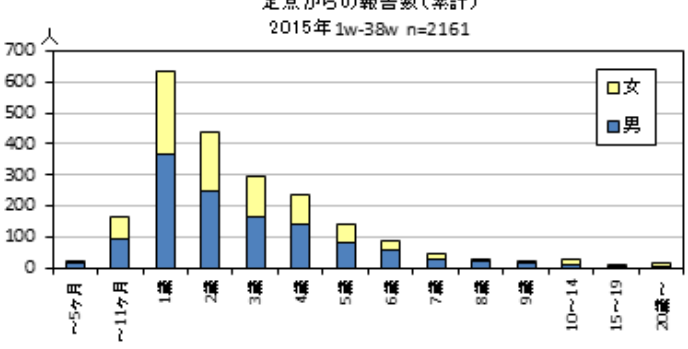
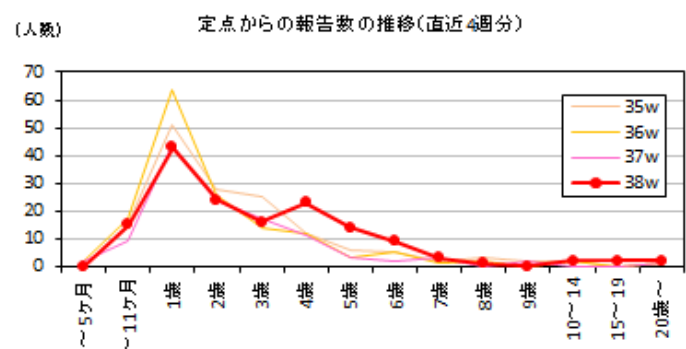
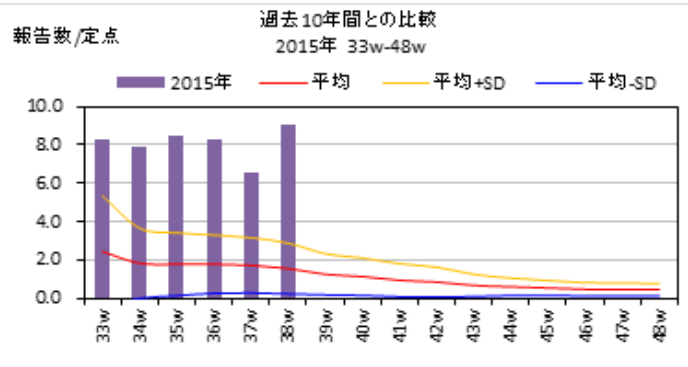
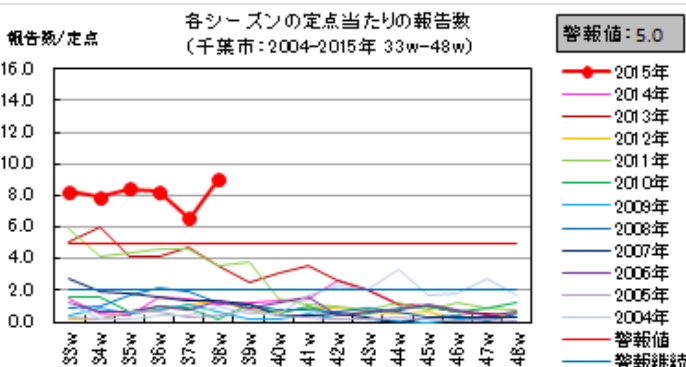
＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞

全国レベルは第7週から過去8年の同時期と比べ最多のレベルで推移しており、第37週現在も同様となっています。都道府県別では静岡県、鳥取県、山口県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルとほぼ同じとなっています。千葉市の2015年第38週は前週から増加し2.12となり、過去10年の同時期と比べると最多となりました。区別の発生状況は、緑区(4.5/定点)で最多で同区の20歳以上で最も多く、1年代あたりでは6歳及び8歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2015年第36週から第38週の累積報告数(n=79)によると、性別では男性が54.4%(43名)、女性が45.6%(36名)で、年齢階級別では5歳(16.5%:13名)、4歳(15.2%:12名)、20歳以上(11.4%:9名)の順に多くなっています。



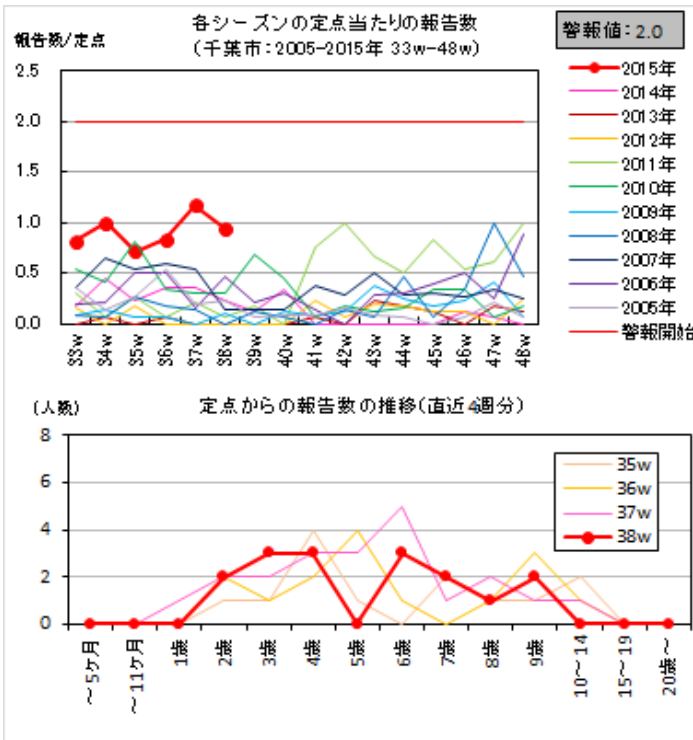
＜手足口病＞

全国レベルの第37週現在は、前週より減少しましたが過去8年の同時期と比べると最多で、流行発生警報開始基準値(5.0/定点)は下回りましたが、流行発生警報終息基準値(2.0/定点)は上回っています。都道府県別では、宮城県、新潟県、山形県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルよりやや多めとなっています。千葉市の2015年第38週は前週から増加に転じ9.04となり、過去10年の同時期と比べると最多で、流行発生警報開始基準値は上回ったままです。区別の発生状況は、花見川区及び緑区が増加に転じ全区で流行発生警報開始基準値に達しています。稲毛区(17.0/定点)で最多で、同区の1歳及び4歳で最も多く発生報告がありました。2015年第1週から第38週までの累積報告数(n=2161)によると、性別では男性が57.4%(1241名)、女性が42.6%(920名)で、年齢階級別では1歳(29.4%:636名)、2歳(20.4%:441名)、3歳(13.8%:298名)の順に多くなっています。



<伝染性紅斑>

全国レベルの第37週現在は、過去8年の同時期と比べると最多のままとなっています。都道府県別では、大分県、鹿児島県、長崎県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べるとやや多めとなっています。千葉市の2015年第38週は前週より減少し0.94となりましたが、過去10年の同時期と比べると最多のままとなっています。区別の発生状況は、稲毛区(1.67/定点)が減少し流行発生警報開始基準値(2.0/定点)を下回りましたが、流行発生警報終息基準値(1.0/定点)を上回って最多となっており、同区の2歳で最も多く発生報告がありました。2015年第1週から第38週までの累積報告数(n=610)によると、性別では男性が53.8%(328名)、女性が46.2%(282名)で、年齢階級別では5歳(15.9%:97名)、6歳(15.1%:92名)、4歳(14.8%:90名)の順に多くなっています。



<流行性角結膜炎>

全国レベルは第34週から過去8年の同時期と比べると最多のレベルで推移しており、第37週現在も同様となっています。都道府県別では、熊本県、鳥取県、長崎県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると少なめとなっています。千葉市の2015年第38週は前週より増加し1.75となり、過去10年の同時期と比べると最多となりました。区別の発生状況は、美浜区(5.0/定点)で最多で、同区の30歳代で最も多く発生報告がありました。2015年第1週から第38週までの累積報告数(n=107)によると、性別では男性が48.6%(52名)、女性が51.4%(55名)で、年齢階級別では30歳代(25.2%:27名)、40歳代(20.6%:22名)、20歳代(12.1%:13名)の順に多くなっています。

